

---

# JAIR Newsletter

No.164 July 2020

日本国際政治学会

    
<https://jair.or.jp/>

## [目次]

巻頭言.....1	理事会便り.....4
前・事務局からのお知らせ.....2	2020年度研究大会プログラム.....5
新・事務局からのお知らせ.....2	編集後記.....16
2020年度研究大会実行委員会からのお知らせ..3	

## 理事長挨拶——プラットフォームとしての持続（発展）可能性

大矢根 聡

先月、理事長という、私には不相応な大役を仰せつかった。思い返せば、最初に職を得た頃に元・現理事長の近くにいる機会があり、先達が日本国際政治学会をいかに特別な場として重んじていたのか、その想いを伺い、また学会を支える様子を目にした。その記憶を辿りつつ、私も2年間を捧げる覚悟をどうにか固めた。各会員、各理事・役職者の皆様のご協力を仰ぎながら、職責を果たしてゆきたい。

本学会は一種のプラットフォームであろう。国際関係をめぐる歴史、地域、理論など多分野の研究者が対等な立場で集い、繋がりをもつ恰好の場になっている。一見乖離した研究を共通の舞台で報告し、論文として開陳しあえるのは、本学会特有の自由でオープンな雰囲気ゆえであろう。そこに展開する対話を通じて、多くの会員が触発し合い、新たな視点や着想を獲得してきた。もちろん、それが活発な論争や知的革新に結実してきたとは言えない、という指摘はその通りであろう。とはいえ、異なる研究間の対話が、特徴的な研究成果に結晶化してきたのは確かである（拙稿「日本の国際政治学」『国際政治』199号、2020年）。

こうしたプラットフォームとしての機能は、今後も育み、次の世代に渡してゆく必要がある。ただしそれは、自ずと実現するわけでもなさそうである。本年度については、新型コロナ・ウィルス感染症の衝撃があり、通常の研究大会を開催することさえ難しい。そのため、前例のないオンライン開催へと舵を切ったが、それで十分な対話を確保できるのか。この難しい課題に対して、すでに関係委員会が具体的検討を進めている。

中長期的な課題もやはり無視できない。プラットフォームの持続可能性は、若手会員の研究に大きく左右されるが、その若手の研究環境は厳しさを増しつつある。また、大学院進学者の減少、少子化などと相俟って、本学会でも若手研究者自体が漸減傾向にある。それとの関係は現在調査中であるが、会員による論文投稿にも相対的減少が認められる。こうした状況を意識しながら、次の3点の課題に優先的に取り組みたいと考えている。

第一は、若手会員に対する支援であり、まずは学会費の削減による負担軽減を実現したい。あわせて研究支援策を一層多角化し、充実させてゆく必要があろう。第二は、学会誌の刊行体制の適正化である。本学会では、和文と英文の学会誌を年に7冊、紙媒体で刊行しており、社会科学系学会では稀な刊行体制のようである。先にふれた投稿状況だけでなく、研究上の対話をさらに活発化し、その回路を多様化する方策を検討し、良案を得たい。

第三には、日本の国際関係研究の特質を再確認する作業を進め、それをより体系的に海外にも発信したい。本学会がプラットフォームたりうるのは、先人による研究の蓄積が土台にあるからこそであろう。その今日的な意義を明確化し、批判的に吟味して前進させ、何らかの国際関係の基本的原理・分析方法を提示できないだろうか。その試みは、対話の射程を広げ、プラットフォームの機能を持続し、ひいては発展させるものになると思われる。

こうした課題への対応について、会員の皆さんと虚心坦懐に対話を重ね、推進してゆきたい。

---

## 前・事務局からのお知らせ

---

### 1. 監査の実施

5月初旬、新型コロナ・ウィルス感染症拡大のため、会計事務所の助言を得て、書類の郵送によって監査を実施しました。その結果、2019年度の事業報告書および決算書類について、適正であることが確認されました。

### 2. 新入会員の承認

5月16日にオンラインにて開催された第13回理事会で、6名の新入会員が承認されました。会費の納入をもって正式に会員となりますので、入会を承認された方々は会費を納入してくださいませよう、お願いいたします。

なお、新型コロナ・ウィルス感染症拡大を受けまして、入会申込の手続きに関し、推薦者等の押印省略など、当面の間、若干の変更を実施することといたしました。詳しくは、学会ウェブサイトの「事務局からのお知らせ」(<https://jair.or.jp/committee/secretariat.html>)をご覧ください。

### 3. 大学院生会員に対する年会費削減措置の実施

新型コロナ・ウィルスの感染拡大に伴い、経済的事情の悪化など、さまざまな影響を受けられた会員の方々に心よりお見舞い申し上げます。理事会にて、申請のありました大学院生の会員を対象に、2020年度の年会費を半減すること（国内学生会員 7,000円、海外学生会員 7,500円）が決定され、7月末まで申請を受け付けました。

### 4. 新学会ウェブサイト運用開始

6月10日より、学会の新ウェブサイトの運用を開始しました。

### 5. 事業報告書・決算書類の承認

6月20日にオンラインにて開催された定時評議員会におきまして、2019年度の事業報告書および決算書類についての議案が承認されました。

### 6. 理事会任期の終了

6月20日に開催された定時評議員会をもちまして、2018-2020年期の理事会の任期は終了いたしました。至らない点が多々あったものと存じますが、これまでのご指導、ご鞭撻に心より感謝申し上げます。

2018-2020年期理事長 佐々木 卓也  
2018-2020年期事務局主任 石川 卓

---

## 新・事務局からのお知らせ

---

### 1. 新理事会・評議員会の発足

2018-2020年期理事会は、6月20日に開催された定時評議員会をもって任期を終了し、その評議員会で選任された新理事14名の構成する新理事会が、2020-2022年期に業務を執行することになりました（定款21条第1項）。

同じ評議員会において、新たな監事（任期2年）2名も選出され、理事会による業務執行の監査にあたることになりました。

また、定款10条に基づき、新たな評議員（任期4年）12名も選任されました。

評議員：赤木完爾 石田淳 遠藤誠治 大芝亮 太田宏 吉川元 國分良成 古城佳子 酒井啓子  
佐々木卓也 田所昌幸 中西寛

監事：篠原初枝 山田敦

また、上記の定時評議員会に続いて、最初の新理事会を開催し、理事長および副理事長、事務局主任（常任理事）を選定するとともに、各理事の職務について決議を行いました（定款21条第2項）。この決議に基づく新理事会の業務分担は以下の通りです。

理事長：大矢根聡 副理事長：飯田敬輔 事務局主任：武田知己  
会計部主任：磯崎典世 同副主任：都留康子  
企画・研究委員会主任：宮城大蔵 同副主任：和田洋典  
編集委員会主任：遠藤貢 同副主任：潘亮 同副主任：葛谷彩  
英文ジャーナル編集委員会主任：鈴木基史  
広報委員会主任：楠綾子 同副主任：倉科一希  
国際交流委員会主任：青山瑠妙

新理事会として、先人による研究と学会運営の巨大とも言える蓄積を踏まえ、透明性や公平性を一層高め、また会員の皆様の研究活動をさらに活性化できるよう、尽力いたす所存です。皆様のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 2. 研究大会のオンライン開催

6月20日、新理事会発足の直後に臨時理事会を招集し、本年度の研究大会の開催方法について審議し、オンライン開催とすることを決定しました。その詳細については、今後、研究大会案内、会員メーリングリスト、学会ウェブサイトを通じてお知らせします。

## 3. 学生会員の会費削減措置

新型コロナ・ウイルス感染症による経済的影響に鑑み、学生会員に対する会費削減措置を実施し、その申請を7月末に締め切りました。その結果、79名の申し込みがありました。順次、措置を実行しております。

## 4. 新入会員の承認

6月20日開催の2020-22年期中第2回理事会で21名の新入会員が承認されました。会費の納入をもって正式に会員となりますので、入会を承認された方々は会費を納入してくださいませよう、お願いいたします。

## 5. 会員メーリングリストへの登録・修正のお願い

会員の皆様におかれましては、会員メーリングリストへの登録手続きをお願いします。一部の会員に対して学会からの案内メールが届かないケースが頻発しております。修正が必要な場合も、下記アドレスより、手続きが可能です。御協力をお願いいたします。

オンライン会員情報管理システムページ

<https://www.e-naf.jp/JAIR/member/login.php> (会員番号、パスワードが必要です)

郵送・メールによる変更も可能です。様式と送り先は、下記で入手・確認できます。

<https://jair.or.jp/membership/membership-procedure/datachange.html>

2020-2022年期中理事長 大矢根聡  
2020-2022年期中事務局主任 武田知己

---

## 2020年度研究大会実行委員会からのお知らせ

---

2020年10月23日から25日にかけて行われる今年度の研究大会は、コロナ禍に対する十分に安全な対策を講じ得ないと判断し、通常開催を断念し、オンライン形式で行うこととなりました。具体的にはウェブ会議システムである「Zoom ウェビナー」を用いて、オンラインで司会・報告・討論・質疑応答をしていただきます。このための運営には、実績のある業者に技術的な業務を委託する準備を進める一方で、大会実行委員会が運営に携わる体制を整え、本学会にふさわしい、高い水準の学術報告と質疑応答、更に会員同士の歓談や対話の機会を、実質的に確保できるよう努める所存です。

研究大会案内(大会プログラム)の発送は、9月上旬を予定しております。また、オンライン研究大会への参加の仕方を記載したマニュアルを含め、大会関連情報は今後、順次ウェブサイト(<https://jair.or.jp/>)に掲載し、更新してまいりますので、継続的にご覧いただければ幸いです。加えて会員メーリングリストでもご連

---

## 理事会便り

---

### 編集委員会からのお知らせ

1. 新理事会の発足に伴い、2020-2022 年期は主任遠藤貢、副主任葛谷彩・潘亮の体制となりました。以下にございます編集主任、副主任へのご連絡はすべて [jair-edit☆jair.or.jp](mailto:jair-edit☆jair.or.jp) 宛にお願いします（メール送付の際は、☆を@に修正してください）。
2. 今後の『国際政治』の刊行予定についてご案内いたします。特集タイトルはすべて仮題です。
  - 2020 年度
    - ・201 号「ソ連研究の新たな地平」（編集：松井康浩会員）
    - ・202 号「1930 年代の国際秩序構想」（編集：戸澤英典会員）
    - ・203 号「核と国際政治」（編集：植木（川勝）千可子会員）
  - 2021 年度
    - ・205 号「検証 エコノミック・ステイトクラフト」（編集：鈴木一人会員） 原稿申込期限は終了しました。
    - ・206 号「国際政治のなかの同盟」（編集：青野利彦会員） 原稿申込期限は終了しました。
    - ・207 号「ラテンアメリカ内政と国際関係の再検証」（編集：宮地隆廣会員） 原稿申込期限は終了しました。
  - 2022 年度
    - ・209 号「SDGs とグローバル・ガバナンス」（編集：蟹江憲史会員）  
申込締切：2020 年 10 月 31 日 提出締切：2021 年 9 月 30 日  
209 号投稿募集：<https://jair.or.jp/committee/henshu/3935.html>
    - ・210 号「冷戦史と日本の国際関係」（編集：黒崎輝会員）  
申込締切：2021 年 1 月 31 日 提出締切：2022 年 12 月 20 日  
210 号投稿募集：<https://jair.or.jp/committee/henshu/5285.html>

会員の皆様の積極的なご応募をお願いします。

3. 独立論文は随時応募を受け付けています。こちらもぜひ奮ってご応募ください。執筆要領等の詳細は学会 Web ページ「『国際政治』投稿等（[https://jair.or.jp/membership/application/rules\\_for\\_papers.html](https://jair.or.jp/membership/application/rules_for_papers.html)）」に掲載されている「『国際政治』掲載原稿執筆要領」をご覧ください。応募・問い合わせ先は、編集委員会 副主任：葛谷彩・潘亮までお願いします。
4. 『国際政治』は特集論文、独立論文とも査読プロセスを経ています。執筆から掲載までに一定の修正が求められることが多く、時間とエネルギーを要するプロセスですが、論文の質の向上には確実に貢献していると考えています。会員各位にはなお一層積極的な投稿および再投稿をお願いします。また、編集委員会より査読をお願いした際には、多くの会員に快くお引き受け頂いており、心より感謝しております。引き続きお力添えを賜りますよう、お願いします。
5. J-STAGE での『国際政治』電子版では、刊行後 2 年以内の号の論文について、購読者番号とパスワードを用いた会員限定の閲覧を行っています。2020 年 7 月現在で、192 号（2018 年 3 月刊行）までの閲覧が可能です。購読者番号とパスワードは、紙媒体ニューズレター146 号に掲載されていますが、会費 納入用紙、『国際政治』等、各種の郵便物とともにお知らせしていきます。また、オンライン会員管理情報システム（e-naf）にお入り頂くと必要な情報をご覧いただけます。
6. 『国際政治』に掲載した論文を執筆者が転載（複製利用）する場合、ご自身の著書等に利用される際は、事前に文書で理事長に申し出いただくことになっており、またリポジトリ等に掲載される際は、編集委員会主任に申し出いただくことになっております（『国際政治』掲載原稿執筆要領 1-(6)・(8)）。前者については、学会ウェブサイトに掲載している申請書をご利用ください（<https://jair.or.jp/wp-content/uploads/documents/tensaikyoka.pdf>）。双方とも連絡は編集委員会主任 遠藤貢

までお願いいたします。

編集委員会主任 遠藤貢  
副主任 葛谷彩・潘亮  
jair-edit☆jair.or.jp  
(☆を@に変えてください)

### 広報委員会からのお知らせ

学会ウェブサイトでは、会員の皆様からのシンポジウム等のお知らせや新刊紹介などを随時掲載しております。情報交換・共有の場としてご活用ください。掲載を希望される場合は、ウェブサイトの「お知らせ投稿フォーム」(<https://jair.or.jp/membership/information/form.html>)をご利用のうえ、ご投稿ください。統一的な記録を残していく必要がありますので、お手数ですが、上記のフォームへの記載をお願いいたします。パスワードは、「オンライン会員情報管理システム (e-naf)」内に掲載されております。e-nafにログインいただきご確認ください。

その他、ニューズレターやウェブサイトについてお問い合わせ等がありましたら、広報委員会 (jair-pr☆jair.or.jp) にご連絡ください。(☆を@に代えてください)

広報委員会主任 楠綾子

## 2020年度研究大会プログラム

※以下のプログラムは暫定版 (7月末時点) です。

### 2020年度研究大会 部会・共通論題プログラム

#### 第1日 10月23日 (金) 13:00~15:30

午後の部会 (13:00~15:30)

##### 部会1 「IR理論に依拠した学際的地域研究」

司会 草野 大希 (上智大学)

報告 重政 公一 (関西学院大学)

「ASEANの弁証法——人権と民主化をみる IR理論のパースペクティブ」

中村 覚 (神戸大学)

「サウディアラビアのロヒンギャ危機への対応——グローバル政治の中での全方位均衡」

大澤 傑 (駿河台大学)

「米州ポリバル同盟の設立と変容を説明する要因は何か——IR理論と地域研究の可能性と限界」

討論 酒井 啓子 (千葉大学)

勝間田 弘 (東北大学)

##### 部会2 「帝國的秩序の崩壊と西側同盟関係」

司会 羽場 久美子 (青山学院大学)

報告 藤井 篤 (香川大学)

「脱植民地化と西側同盟——アルジェリア戦争とフランス・ベルギー関係」

三須 拓也 (東北学院大学)

「コンゴ動乱を巡る米英関係」

鈴木 宏尚 (静岡大学)

「再考・池田政権と東南アジア」

討論 都丸 潤子 (早稲田大学)

寺地 功次 (共立女子大学)

**部会 3 「21世紀東アジアにおける政治的価値観の対立——中国・台湾・香港関係の視点から」**

司会 益尾 知佐子 (九州大学)

報告 谷垣 真理子 (東京大学)

「香港社会における『自由』の重要性——『一国』へのひとつの挑戦」

門間 理良 (防衛省防衛研究所)

「COVID-19 流行の中で政治的価値強化に努める台湾」

加茂 具樹 (慶應義塾大学)

「国内政治と外交政策の相互作用：中国の国内政治としての対香港政策」

討論 松田 康博 (東京大学)

竹中 千春 (立教大学)

**部会 4 “The Development and Limits of Regional Institutions: Comparative Studies of Non-Western Cases” (英語で実施)**

**Chair:** HIGASHINO Atsuko (University of Tsukuba)

**Speakers:**

KOGA Kei (Nanyang Technological University)

“Role of Regional Institutions in Regional Security: Cases of SCO and SAARC”

SUZUKI Sanae (The University of Tokyo)

“Intervention and State Strength: ASEAN and ECOWAS Compared”

MUELLER Lukas Maximilian (University of Freiburg)

“Re-assessing Regionalism in the Global South from the inside out: Regional Public Administrations’ Contribution to ASEAN’s and ECOWAS’s Policy Processes”

**Discussant:**

DAIDOUJI Ryuya (Waseda University)

YUZAWA Takeshi (Hosei University)

**部会 5 「冷戦を考える——歴史・思想・植民地主義の観点から」**

司会 下斗米 伸夫 (神奈川大学)

報告 倉科 一希 (広島市立大学)

「冷戦と『ドイツ問題』」

鈴木 陽一 (下関市立大学)

「イギリス帝国終焉への道——冷戦期国際社会の変容と脱植民地化」

西村 邦行 (南山大学)

「(政治哲学の死)の影で——冷戦期アメリカ国際関係論の精神史試論」

討論 葛谷 彩 (明治学院大学)

池田 亮 (東北大学)

分科会セッション A (15:45~17:15) 別掲

分科会セッション B (17:30~19:30) 別掲

---

**第2日 10月24日(土) 9:30~12:00, 15:30~18:20 (共通論題)**

---

午前の部会 (9:30~12:00)

**部会 6 “Critical Analysis of Global Policy on Humanitarian Crisis” (英語で実施)**

**Chair:** KAWAGUCHI Chigumi (Toyo Gakuen University)

**Speakers:**

KAMINO Tomoya (Gifu University)

“National Policy of Disaster Response: the US and Japan”

GOMEZ Oscar A. (Ritsumeikan Asia Pacific University)

“A Model for the Global Governance of Crises? The Health Emergencies Programme and the Limits of International Response”

IKEDA Josuke (University of Toyama)

“Peacebuilding Paradigm Sustainable? A Critical Theoretical Inquiry”

**Discussant:**

OKABE Midori (Sophia University)

SHIGA Hiroaki (JICA Research Institute)

**部会 7 「エアバス、欧州航空機産業と米国——経済ロジックと安全保障ロジックの融合と対立」**

司会 鈴木 一人（北海道大学）

報告 鈴木 均（外務省）

「エアバスと米国——経済ロジックと安保ロジックの相克と対立」

上原 良子（フェリス女学院大学）

「仏ダッソー社の独自路線——国家・安全保障・グローバルマーケット」

河越 真帆（神田外語大学）

「EUによるエアバス側面支援——補助金をめぐる GATT/WTO 紛争」

討論 鈴木 一人（北海道大学）

田所 昌幸（慶應義塾大学）

**部会 8 「グローバル・リスクをめぐるガバナンス」**

司会 山田 哲也（南山大学）

報告 川村 仁子（立命館大学）

「先端科学・技術のガバナンス——研究開発のためのリスク管理の枠組み」

前田 幸男（創価大学）

「人類は気候危機を乗り越えられるのか？——脱人間中心のガイア政治に向けて」

和田 洋典（青山学院大学）

「ネオリベラリズムの危機と粘り強さ——オルタナティブな秩序は可能か」

討論 須田 祐子（東京外国語大学）

上村 雄彦（横浜市立大学）

**部会 9 「変容する国際関係と日本の開発援助」**

司会 高柳 彰夫（フェリス女学院大学）

報告 高橋 良輔（青山学院大学）

「ジオエコノミクス化する日本の ODA——パワーと価値の新たな地理的投射」

船田クラーク セン さやか（明治学院大学）

「国際関係と日本の対アフリカ投資・開発援助——モザンビークの事例」

山本 レイモンド（オーフス大学）

「SDG と日本の開発協力戦略」

討論 岡部 恭宜（東北大学）

小川 裕子（東海大学）

**部会 10 日韓合同部会 “Japan, Korea and the Post-Cold War Era” （英語で実施）**

司会 飯田 敬輔（東京大学）

報告 佐藤 丙午（拓殖大学）

「日韓『輸出管理』問題から見る日米韓関係の変化」

KAIS 報告者（交渉中）

「未定」

KAIS 報告者（交渉中）

「未定」

討論 添谷 芳秀（慶應義塾大学）

上村 直樹（南山大学）

**分科会セッション C（13：30～15：10）別掲**

**総会（15：10～15：30）**

**【共通論題】『主権』をめぐる攻防（15:30～18:20）**

司会 後藤 春美（東京大学）

報告 中西 寛（京都大学）

「普通の国から不思議の国へ——冷戦後の日本と主権」

勝間 靖（早稲田大学）

「COVID-19 影響下における国際機構、国際保健協力、政治的リーダーシップのゆくえ——WHO、製薬企業、シラクサ原則をめぐる論争」

- 錦田 愛子 (慶應義塾大学)  
「国家主権の外側におかれる者の危機——移民／難民およびパレスチナの権利をめぐる」
- 討論 納家 政嗣 (上智大学)  
長 有紀枝 (立教大学)

---

**第3日 10月25日(日) 14:00～16:30**

---

分科会セッションD (9:30～11:00) 別掲  
分科会セッションE (11:15～12:45) 別掲

午後の部会 (14:00～16:30)

**部会 11 「平和構築と国際秩序」**

- 司会 井上 実佳 (東洋学園大学)  
報告 篠田 英朗 (東京外国語大学)  
「パートナーシップ平和活動と重層的な国際安全保障体制」  
帯谷 俊輔 (東京大学)  
「国際連盟期の平和維持——大戦・国境紛争・内戦」  
中谷 純江 (国際連合)  
「PKOに於けるハイブリッド・パートナーシップの実情」
- 討論 等松 春夫 (防衛大学校)  
井上 実佳 (東洋学園大学)

**部会 12 「日米安保体制と核兵器問題」**

- 司会 波多野 澄雄 (国立公文書館)  
報告 中島 琢磨 (九州大学)  
「原子力潜水艦の日本寄港問題——核兵器搭載艦艇の寄港問題の争点化」  
西村 真彦 (京都大学)  
「核持ち込み問題に関する日米両国の認識形成過程——核『密約』研究の現状と課題」  
岸 俊光 (毎日新聞社／早稲田大学)  
「日本の非核政策の源流——日本政府下の『現実主義』学者による委託研究からの考察」
- 討論 岩間 陽子 (政策研究大学院大学)  
河内 孝 (外国特派員協会)

**部会 13 「歴史研究と理論研究の融合はどこまで可能か——新たな研究方法の模索」**

- 司会 宮下 明聡 (東京国際大学)  
報告 島村 直幸 (杏林大学)  
「リベラルな国際秩序ははたして維持されるのか——理論と歴史の間」  
中谷 直司 (帝京大学)  
「外交史の研究者はなぜ理論を使わないのか——研究者の『生存競争』を超えて」  
泉川 泰博 (中央大学)  
「理論研究と歴史研究の統合——懐疑的見解」
- 討論 宮下 明聡 (東京国際大学)  
山本 健 (西南学院大学)

**部会 14 「レファレンダムと国際政治——民主主義と地域的秩序の共振」**

- 司会 池本 大輔 (明治学院大学)  
報告 尾立 要子 (大阪府立大学)  
「暴力から共存へ——2018年レファレンダムに至るフランスとニューカレドニアの絶えざる交渉」  
高林 敏之 (立教大学)  
「棚上げされた住民投票——西サハラ国連和平プロセスの《破綻》とアフリカ地域情勢」  
吉武 信彦 (高崎経済大学)  
「欧州統合過程におけるレファレンダム——北欧諸国の事例を中心として」
- 討論 池本 大輔 (明治学院大学)  
黒田 友哉 (専修大学)



## 部会 15 「ナショナリズムと暴力」

司会 加藤 普章（大東文化大学）

報告 青山 弘之（東京外国語大学）

「シリアの非国家武装勢力の実態」

岡野 英之（近畿大学）

「隣国に漏出するナショナリズム——ミャンマー内戦におけるシャン人ナショナリズムとタイへの移民」

奥野 良知（愛知県立大学）

「カタルーニャ・スペイン問題：その要因と現状——進む国際問題化」

討論 落合 雄彦（龍谷大学）

内田 みどり（和歌山大学）

## 分科会プログラム

### ◆10月23日（金）

#### 分科会セッション A（15:45～17:15）

##### A-1 東南アジア分科会 I

責任者 増原 綾子（亜細亜大学）

テーマ 東南アジアの地方政治

司会 増原 綾子（亜細亜大学）

報告 西村 謙一（大阪大学）

「住民参加は自治体パフォーマンスにいかなる影響を与えるのか——フィリピンを例にして」

長谷川 拓也（京都大学）

「地方発の政策革新とその波及——インドネシア公務員報酬制度の変化」

討論 日下 渉（名古屋大学）

小山田 英治（同志社大学）

##### A-2 理論と方法 I

責任者 岩波 由香里（大阪市立大学）

テーマ 実験・計量分析

司会 小濱 祥子（北海道大学）

報告 松本 朋子（東京理科大学）

「再分配政策に対する有権者の態度——米英日瑞の多国間サーヴェイ」

飯田 健（同志社大学）

“Does a Patron State’s Hardline Posture Reassure the Public in an Allied State?: Evidence from a Quasi-Natural Experiment”

土井 翔平（早稲田大学）、栗崎 周平（早稲田大学）

「新たな安全保障問題としての ESG 投資ジレンマ——グローバルな株保有ネットワークの分析」

篠本 創（京都大学）

「米国の積極的関与と反米感情——脅威認識と駐留米軍の規模の観点から」

討論 松村 尚子（神戸大学）

伊藤 岳（広島大学）

##### A-3 政策決定分科会

責任者 川名 晋史（東京工業大学）

テーマ イノベーションエコシステムの変容と管理をめぐる政策決定

司会 高山 嘉頭（日本国際問題研究所）

報告 松村 博行（岡山理科大学）

「外国人 STEM 人材受け入れをめぐる政策決定」

齊藤 孝祐（横浜国立大学）

「新興技術の普及と規制——『想像上の価値』をめぐる安全保障政策の変容」

討論 土屋 貴裕（京都先端科学大学）

手塚 沙織（南山大学）

**A-4 国際交流分科会 I** 責任者 齋川 貴嗣 (高崎経済大学)  
テーマ 国際文化交流からグローバル文化交流へ——国際交流研究の将来を展望する (ラウンドテーブル)  
司会 加藤 恵美 (帝京大学)  
報告者 芝崎 厚土 (駒澤大学)  
『『文化』と『文化』の出会い——グローバル交流研究のための覚書』  
討論 井上 浩子 (大東文化大学)  
齋川 貴嗣 (高崎経済大学)

**A-5 国連研究分科会** 責任者 滝澤 美佐子 (桜美林大学)  
テーマ 国連専門機関と加盟国との関係——対立と協力の諸動向  
司会 滝澤 美佐子 (桜美林大学)  
報告 張 雲 (新潟大学)  
「権威主義体制における国際機関の運営メカニズム——国際労働機関 (ILO) とミャンマー軍政中枢との相互認知変化を事例として」  
詫摩 佳代 (東京都立大学)  
「世界保健機関 (WHO) と加盟国——次なるパンデミックにどう備えるか」  
討論 勝間 靖 (早稲田大学)  
杉浦 功一 (和洋女子大学)

**A-6 若手研究者・院生研究会分科会 I** 責任者 湯浅 拓也 (青山学院大学)  
テーマ 国際金融の枠組みをめぐる国際政治  
司会 大山 貴稔 (九州工業大学)  
報告 津田 久美子 (北海道大学)  
「国際課税から見る国際金融規制の枠組み」  
川波 竜三 (慶應義塾大学)  
「戦後国際通貨システムの動揺とアメリカ——ポンド危機に揺れるイギリスへの対応、1964～1968年」  
討論 古城 佳子 (青山学院大学)  
山口 育人 (奈良大学)

### 分科会セッション B (17:30～19:30)

**B-1 東アジア** 責任者 加茂 具樹 (慶應義塾大学)  
テーマ 東アジア  
司会 加茂 具樹 (慶應義塾大学)  
報告 山崎 周 (青山学院大学)  
「日本と中国の対照的な対米戦略とその実際的影響——両国の対中東エネルギー政策を事例として」  
李 孝連 (一橋大学)  
「国際関係における国家ブランド・イメージ形成のメカニズム——日本の人的交流の事例を中心に」  
討論 田中 浩一郎 (慶應義塾大学)  
中村 登志哉 (名古屋大学)

**B-2 東南アジア分科会 II** 責任者 増原 綾子 (亜細亜大学)  
テーマ 東南アジアにおける理念と国際関係  
司会 増原 綾子 (亜細亜大学)  
報告 西 直美 (同志社大学)  
「宗教とナショナリズム——イスラームからみるタイ深南部紛争の諸相」  
井原 伸浩 (名古屋大学)  
「経済協力理念としてのマニラ・スピーチとその政策」  
討論 河野 毅 (東洋英和女学院大学)  
若月 秀和 (北海学園大学)

**B-3 理論と方法Ⅱ** 責任者 岩波 由香里 (大阪市立大学)

テーマ 応用ゲーム理論

司会 岩波 由香里 (大阪市立大学)

報告 広瀬 健太郎 (早稲田大学)

“Why Power Asymmetry Prevents War: Threats vs. Rewards”

石黒 馨 (神戸大学)

「貿易戦争の緩衝としての貿易協定」

井奥 崇輔 (早稲田大学)

“Threats and Assurances with Military Mobilization”

討論 栗崎 周平 (早稲田大学)

岩波 由香里 (大阪市立大学)

**B-4 国際政治経済分科会Ⅰ** 責任者 小川 裕子 (東海大学)

テーマ 国際規範の新次元

司会 小川 裕子 (東海大学)

報告 赤星 聖 (関西学院大学)

“Roles of Guiding Principles in the Polycentric World: A Comparative Study of ‘Business and Human Rights’ and ‘Internal Displacement’ ”

稲田 十一 (専修大学)

「急拡大する中国の対外経済協力のインパクトとその『規範』の変容」

討論 西谷 真規子 (神戸大学)

和田 洋典 (青山学院大学)

**B-5 国際交流分科会Ⅱ** 責任者 齋川 貴嗣 (高崎経済大学)

テーマ 自由論題報告

司会 齋川 貴嗣 (高崎経済大学)

報告 上地 聡子 (日本大学)

「『沖縄人』という一体感の構築——敗戦直後における沖縄『在外同胞』情報共有過程の分析から」

島田 大輔 (早稲田大学)

「冷戦下日本における対ムスリム宣伝工作と国際交流——国際モスLEM協会 (1952-60) とその機関誌 Green Flag の分析を通じて」

平井 新 (早稲田大学)

「『対外戦略』としての移行期正義——台湾の対中国大陸向け声明を事例に」

討論 辛島 理人 (神戸大学)

五十嵐 元道 (関西大学)

**B-6 若手研究者・院生研究会分科会Ⅱ** 責任者 湯浅 拓也 (青山学院大学)

テーマ 国際秩序をめぐる先端研究

司会 深澤 一弘 (一橋大学)

報告 水野 良哉

「『ヨーロッパの再建』を目指して——第一次世界大戦時におけるアーノルド・J・トインビーの戦後構想」

守谷 優希 (一橋大学)

「加盟国の外交姿勢からの欧州連合の外交政策の再解釈——ベルギーと日欧 SPA」

渡辺 司 (青山学院大学)

「国内紛争における第三者介入の効果——紛争期間に対する直接効果と間接効果」

討論 小濱 祥子 (北海道大学)

湯浅 拓也 (青山学院大学)

◆10月24日(土)  
分科会セッションC (13:30~15:10)

**C-1 日本外交史分科会** 責任者 高橋 和宏 (法政大学)

テーマ 自由論題

司会 高橋 和宏 (法政大学)

- 報告 金子 貴純（大東文化大学）  
「日中諸懸案の『地方的解決』をめぐる外務省と陸軍の論理と政策——1935年を中心に」  
森田 吉彦（大阪観光大学）  
「高坂正堯の国際政治思想と学問形成」  
八代 拓（山口大学）  
「池田政権とカレル・ドールマン号事件——冷戦と経済の交錯」
- 討論 戸部 良一（防衛大学校）  
細谷 雄一（慶應義塾大学）  
佐藤 晋（二松學舎大学）
- C-2 欧州国際政治史・欧州研究分科会 I** 責任者 池田 亮（東北大学）
- テーマ イギリスと中東・地中海  
司会 池田 亮（東北大学）  
報告 入山 慎一（東京大学）  
「ジブラルタル問題とイギリス外交（1964年～69年）——国連における脱植民地化の議論と英西関係」  
ミラー富永 枝里香（一橋大学）  
「1973年石油危機と中東和平プロセスにおけるイギリスの対米協調政策」  
田中 亮佑（防衛研究所）  
「英国保守党とイラク戦争——冷戦後の対湾岸政策と武力行使の観点から」
- 討論 小野沢 透（京都大学）  
細田 晴子（日本大学）  
小川 浩之（東京大学）
- C-3 アフリカ分科会・国連研究分科会** 責任者 佐藤 章（アジア経済研究所）  
滝澤 美佐子（桜美林大学）
- テーマ アフリカと国連——脱植民地化から平和の定着へ  
司会 佐藤 章（アジア経済研究所）  
報告 山田 真弓（立命館大学）  
「人道開発と平和構築における国連の役割——南スーダンの現状と課題」  
井上 実佳（東洋学園大学）  
「1990年代における国連 PKO の変容とソマリア——『グールドディング・レポート』をめぐる」  
佐藤 裕視（ハーバード大学）  
「エウエ統一運動と英国信託統治領トーゴの自決——国連を介したトランスファー・オブ・パワーの模索」
- 討論 前川 和歌子（名古屋商科大学）  
三須 拓也（東北学院大学）
- C-4 理論と方法Ⅲ** 責任者 岩波 由香里（大阪市立大学）
- テーマ テキスト分析  
司会 多湖 淳（早稲田大学）  
報告 片桐 梓（シンガポール南洋理工大学）  
“Deliberating for De-escalation: US Troop Withdrawal from Vietnam”  
ジョナサン ルイス（一橋大学）、松村 尚子（神戸大学）、大林 一広（一橋大学）、渡辺 綾（日本貿易振興機構（JETRO）アジア経済研究所）  
“Legislative Speeches and Political Violence: The Case of the Philippines”  
久野 遼平（東京大学）  
「イシュー・リンケージの量的テキスト分析」
- 討論 松本 朋子（東京理科大学）
- C-5 国際統合分科会 I** 責任者 武田 健（東海大学）
- テーマ 欧州統合の求心力——域内と域外の比較  
司会 武田 健（東海大学）  
報告 福井 英次郎（埼玉県立大学）  
「EUによる『危機』対応と加盟国間の認識ギャップ」

市川 颯 (東洋大学)  
「イリベラル・デモクラシーをめぐるポーランド=EU 関係」  
討論 羽場 久美子 (青山学院大学)  
小林 正英 (尚美学園大学)

**C-6 国際政治経済分科会 II** 責任者 小川 裕子 (東海大学)  
テーマ グローバル・ガバナンスの新形態  
司会 小川 裕子 (東海大学)  
報告 三浦 聡 (名古屋大学)  
「Life Between Fragmentation and Integration: An Ecosystem Model of Global Governance」  
上村 雄彦 (横浜市立大学)  
「人類の生存危機を回避するためのグローバルな政策と制度に関する一考察——グローバル・タックスと世界政府論を中心に」  
向山 直佑 (オックスフォード大学)  
「Painting States in Oil: The Separate Independence of Resource-Rich Colonial Areas」  
討論 山田 敦 (一橋大学)  
遠藤 貢 (東京大学)

**C-7 環境** 責任者 渡邊 智明 (福岡工業大学)  
テーマ 地球環境レジームの「有効性」問題  
司会 亀山 康子 (国立環境研究所)  
報告 川本 充 (慶應義塾大学)  
「地球環境条約レジームの『実効性』概念」  
阪口 功 (学習院大学)  
「プライベートレジーム・コンプレックスとメタガバナンス・スキーム——制度間相互作用と有効性問題」  
討論 渡邊 智明 (福岡工業大学)  
横田 匡紀 (東京理科大学)

◆10月25日(日)

分科会セッションD (9:30~11:00)

**D-1 東アジア国際政治史分科会** 責任者 家永 真幸 (東京女子大学)  
テーマ 戦後日本における「外国人」管理をめぐる政治・外交  
司会 家永 真幸 (東京女子大学)  
報告 崔 紗華 (同志社大学)  
「朝鮮籍回復運動の展開過程とその意義——1960年代後半における日朝・日韓関係に着目して」  
鶴園 裕基 (早稲田大学)  
「外国人登録と日本華僑——占領期における華僑管理政策の展開 (1947-1951)」  
討論 新垣 修 (国際基督教大学)  
井上 正也 (成蹊大学)

**D-2 欧州国際政治史・欧州研究分科会 II** 責任者 池田 亮 (東北大学)  
テーマ 冷戦期ヨーロッパの諸構想  
司会 山本 健 (西南学院大学)  
報告 黒木 美来 (早稲田大学)  
「欧州統合構想をめぐるイギリス労働党と欧州統合運動団体の対立——1948年5月ハーグ会議への参加問題を事例として」  
高坂 博史 (京都大学)  
「新冷戦下の欧州における安全保障デタントの展開と西欧の役割」  
討論 上原 良子 (フェリス学院大学)  
黒田 友哉 (専修大学)

- D-3 ラテンアメリカ分科会** 責任者 舛方 周一郎 (東京外国語大学)
- テーマ 内政と国際関係の再検証
- 司会 舛方 周一郎 (東京外国語大学)
- 報告 山岡 加奈子 (アジア経済研究所)  
「中ロ台頭下のキューバ革命体制の存続要因としての外交——ベトナムとの比較」  
舛方 周一郎 (東京外国語大学)  
「ラテンアメリカ気候変動政策への中国戦略的パートナーシップの関与」
- 討論 庄司 智孝 (防衛研究所)  
鄭 方婷 (アジア経済研究所)
- D-4 国際統合分科会Ⅱ** 責任者 武田 健 (東海大学)
- テーマ ヨーロッパの地域機構と主権国家
- 司会 鶴岡 路人 (慶應義塾大学)
- 報告 大内 勇也 (早稲田大学)  
「1960年代の欧州人権規範『実行化』と欧州人権保障制度——ギリシャ軍事政権をめぐる政治過程から」  
清水 謙 (立教大学)  
「スウェーデンにおける『中立』と欧州統合——第一次パルメ政権期の西側軍事協力と EC 加盟論」
- 討論 網谷 龍介 (津田塾大学)  
鶴岡 路人 (慶應義塾大学)
- D-5 国際政治経済分科会Ⅲ** 責任者 小川 裕子 (東海大学)
- テーマ グローバル・ガバナンスとビジネス
- 司会 小川 裕子 (東海大学)
- 報告 鈴木 麻央 (南カリフォルニア大学)  
「国際公衆衛生分野における官民連携の形成要因」  
御代田 有希 (一橋大学)  
「市場メカニズムを通じたグローバル課題の解決手法としての ESG 投資——その傾向と普及要因」  
藤田 将史 (東京大学)  
「米国有権者の国際貿易協定に対する反発—— 一般的信頼による貿易選好の形成」
- 討論 杉之原 真子 (フェリス女学院大学)  
鈴木 一敏 (上智大学)
- D-6 平和研究分科会** 責任者 清水 奈名子 (宇都宮大学)
- テーマ 自由論題
- 司会 清水 奈名子 (宇都宮大学)
- 報告 小松 寛 (茨城大学)  
「日本復帰後の沖縄県による自治体外交と中台問題」  
外村 晃 (在スリランカ日本大使館)  
「中断された正義——スリランカの移行期の正義における今後の見方」
- 討論 深串 徹 (愛知大学)  
クロス 京子 (京都産業大学)
- D-7 若手研究者・院生研究会分科会Ⅲ** 責任者 湯浅 拓也 (青山学院大学)
- テーマ 自由貿易体制における社会課題
- 司会 湯浅 拓也 (青山学院大学)
- 報告 深澤 一弘 (一橋大学)  
「なぜアメリカと EU では貿易に関する労働条項に差異があるのか——自由貿易協定の事例分析」
- 討論 富田 晃正 (埼玉大学)  
岡本 次郎 (下関市立大学)

## 分科会セッション E (11:15~12:45)

- E-1 欧州国際政治史・欧州研究分科会Ⅲ** 責任者 池田 亮 (東北大学)
- テーマ グローバル・ヒストリーからみる国際法／国際社会の「拡大」——C. H. Alexandrowicz と英国学派
- 司会 大中 真 (桜美林大学)
- 報告 幡新 大実 (大阪女学院大学)  
「アレクサンドロヴィッチにおける『国際社会』の構成国要件に関する史実的批判」  
千知岩 正継 (立命館アジア太平洋大学)  
「“International organization(s)” 再考——英国学派と国際機構論の邂逅の視点から」
- 討論 池田 丈祐 (富山大学)
- 
- E-2 アメリカ政治外交・東アジア国際政治史合同分科会** 責任者 森 聡 (法政大学)
- テーマ 冷戦期デタント外交再考
- 司会 森 聡 (法政大学)
- 報告 兪 敏浩 (名古屋商科大学)  
「デタントと中国外交の転換 (1972-1974)」  
尾身 悠一郎 (一橋大学)  
「カーター政権の対ソ・対中エネルギー政策」
- 討論 益尾 知佐子 (九州大学)  
水本 義彦 (獨協大学)
- 
- E-3 中東分科会** 責任者 松尾 昌樹 (宇都宮大学)
- テーマ 国際情勢の変化と内政——相互作用のダイナミクス
- 司会 松尾 昌樹 (宇都宮大学)
- 報告 鈴木 啓之 (東京大学)  
「和平と和解のジレンマ——パレスチナ暫定自治政府を事例に」  
千坂 知世 (大阪大学)  
「イラン・イスラム共和制における選挙による対外的正当性の追求」
- 討論 松永 泰行 (東京外国語大学)  
錦田 愛子 (慶應大学)
- 
- E-4 国際統合分科会Ⅲ** 責任者 武田 健 (東海大学)
- テーマ ヨーロッパ統合の多次元連関——サブナショナル、ナショナル、EU、インターナショナル
- 司会 望月 康恵 (関西学院大学)
- 報告 松尾 秀哉 (龍谷大学)  
「分離独立運動と EU——ベルギーを例として」  
小松崎 利明 (天理大学)  
「2010年代における EU の対国際刑事裁判所政策の態様」
- 討論 松本 佐保 (名古屋市立大学)  
望月 康恵 (関西学院大学)
- 
- E-5 安全保障分科会** 責任者 小谷 哲男 (明海大学)
- テーマ 安全保障の思想と理論
- 司会 小谷 哲男 (明海大学)
- 報告 張 帆 (京都大学)  
「冷戦後期の防衛論争と日本的現実主義者」  
Ivan González Pujol (専修大学)  
“Making Theoretical and Analytical Sense out of the Hedging Strategy”  
佐桑 健太郎 (青山学院大学)、渡辺 理子 (無所属)  
“Intentional Alliance and Rivalry Networks and Conflict Diffusion: Simulating the Effect of Network Structure”
- 討論 泉川 泰博 (中央大学)  
中山 俊宏 (慶應義塾大学)

**E-6 ジェンダー分科会**

責任者 中村 文子（山形大学）

テーマ 武力紛争と女性

司会 中村 文子（山形大学）

報告 米川 正子（筑波学院大学）

「強制移動と紛争下の性暴力——コンゴ女性難民の事例から」

高松 香奈（国際基督教大学）

「紛争後の復興プロセスとジェンダー——女性兵士の処遇をめぐる」

討論 上野 友也（岐阜大学）

---

■編集後記

旧広報委員会として最後のニューズレターとなります。多くの号で遅配を出してしまいましたことをお詫び申し上げますと共に、この2年間、ご協力くださった全ての皆様に御礼を申し上げます。(TY)

春先にはzoomって何？という状態でしたが、すっかりオンラインが日常化しました。コロナ禍もまだ先が見えませんが、皆様、どうぞご自愛ください。(TM)

スマホやタブレットでの閲覧に対応した新たなウェブサイトをようやく公開できました。これからも会員みなさまの利便性向上に努めて参ります。(SK)

日本国際政治学会ニューズレター No.164  
(2020年8月21日発行)

発行人 大矢根 聡

編集人 山田 哲也・宮城 大蔵・小林 哲

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学第三研究館内

日本国際政治学会 一橋事務所気付

山田 哲也 [jair-pr☆jair.or.jp](mailto:jair-pr☆jair.or.jp)